

「感染は誰の身にも」

無防備な性交渉に注意促す

ポジティブ・エイズ・トーク



エイズ感染者らの現状について報告された「ポジティブ・エイズ・トーク」

新たなHIV（エイズウイルス）感染を防ぎ、感染者の暮らしやすい社会づくりを語る「ポジティブ・エイズ・トーク」が1日、小倉北区の市立男女共同参画センター・ムーブであった。国内の感染者で作る団体の長谷川博史代表や、福岡市に拠点を置く感染者支援団体の北村紀子代表と医師らがエイズを巡る現状について語り、女

生ごみを入れた袋を持って外に出ると見渡す限りの銀世界だった。庭の木もフ

性が大半を占めた参加者約60人からの質問に答え

た。
国の調査では、02年の国内感染者は600人以上、03年10月までの累計は8000人以上。長谷川さんらは「感染を公表しているのは全国で10人足らず。大半が感染を隠さざるを得ない状況にある」「家族にも言えず、遠くの病院で診察する人もいる」などと話し「性交渉を介した感染が大半、感染は誰の身にも起こりうる」と強調した。

その上で「避妊具などで自分を守るのは他人を守ること」「避妊具をつけないなど無防備な性交渉にノーといえる女性になってほしい」と語り、

若い人の姿が目立った会場からは「気軽に検査を受けられる場所は」などの質問があり、無料、匿名で相談員もいる保健所での検査が勧められた。
【林田雅浩】

HIVの不安・悩み 前向きに語り合おう

感染者・医師交えトーク

小倉北・ムーブ

エイズについて語り合
うトークライブ「ポジテ
ィブ・エイズ・トーク」
(エイズ予防財団主催)
が1日、北九州市小倉北
区のムーブであった。H
IV感染者や医師など4
人のパネリストが、約70
人の参加者(エイズに
いて意見を交わした。
ライブでは、国立病院
九州医療センター(福岡

市)の山本政弘さんが「福岡、沖縄でHIV感
染者が非常に増えてい
る」と現状を説明。「家
族にも言えず、検査を受
けず、発症してから来る
人もいる」と話した。
エイズ患者らの支援組
織「シャンププラス」代
表の長谷川博史さんは、
HIV感染を公表してい
る。長谷川さんは「感染
者の割合にパートナーが
いる。コミュニケーション
を取ることで、相手と
いい関係でいられるよう
になる」と話した。
会場からは「感染して
できなかったことは」
「医療費は月いくらか
かるか」など質問が出
され、参加者はメモを取
りながら熱心に聴き
入っていた。

2/2(月) 本

エイズテーマに 感染者らが討論

小倉北区でシンポ
エイズウィルス(HI
V)感染者や医師、支援
者がエイズをテーマに語
り合ったシンポジウム「ポ
ジティブ・エイズ・トー
ク」(エイズ予防財団主
催)が1日、小倉北区の
市立男女共同参画センタ
ー・ムーブであった。
パネリストは、HIV
感染者・エイズ患者のネ
ットワーク組織「JAN

P」代表の長谷川博史
さん▽国立病院九州医療
センター免疫感染科医長
の山本政弘さん▽「人権
と共生を考えるエイズ・
ワーカーズ福岡」代表の
北村紀代子さん▽産婦人
科医の堀口雅子さんの
四人。
長谷川さんの体験談を
もとに、感染者の現状や
予防法について意見を交
わし、「たれもが感染す
る恐れがあるので正しい
予防法を知る」ともしや、
と想ったら保健所などに
相談に行く」「性交渉に
よる感染者が増えている
ので避妊具を使用する」
ことなどを、会場の出席
者に訴えた。
厚生労働省などによる
国内の新たなHIV
感染者は二〇〇一年、〇
二年とも約七百人に上
り、一九九〇年代から倍
増しているという。

厚生労働科学研究エイズ対策研究事業発表会

主催▶(財)エイズ予防財団

担当▶北九州市立男女共同参画センター“ムーブ”
産業医科大学医学部公衆衛生学教室(剣)

2002年に日本国内であらたにHIVに感染した人は600人以上。
(厚生労働省による発表)

エイズは誰でもかかる可能性がある病気です。

でも、私たちはこの病気のことを本当に知っているのでしょうか？

あらたな感染を防ぐために、また感染者が快適な生活を送ることができる

環境をつくるために、知ること、話すことから始めましょう。

「ポジティブ」という言葉には、ウィルス感染陽性である、という意味と同時に、

「前向き」「積極的」という意味があります。

感染者、医者、支援者が「エイズの時代」をポジティブに語るトークライブです。

■トークライブ

「ポジティブ・エイズ・トーク」

2004年2月1日(日)

14:00~16:00

会場▶北九州市立男女共同参画センター
“ムーブ”1階交流広場

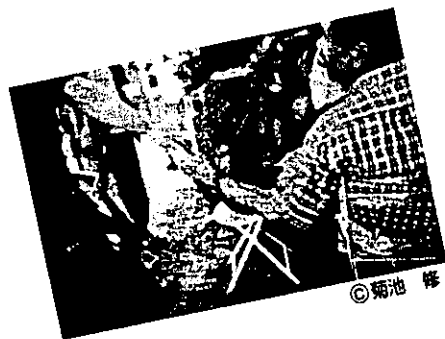
■出演者

長谷川博史…JaNP+ (HIV感染者・エイズ患者のネットワーク組織)代表

北村紀代子…人権と共生を考えるエイズ・ワーカーズ・福岡代表

山本政弘…国立病院九州医療センター免疫感染症科医長/感染症対策室長

堀口雅子…「性と健康を考える女性専門家の会」会長/虎の門病院産婦人科医師



©堀池 修

■写真展

「Positive Lives Asia」

2004年1月20日(火)~2月1日(日)

会場▶北九州市立男女共同参画センター
“ムーブ”1階交流広場

タイ、フィリピン、中国、韓国、そして日本。

アジアの国々でエイズと闘う人々の姿をとらえた写真展を開催します。

英国の非営利団体「ネットワーク・フォトグラファーズ」が中心となって1993年にロンドンで立ち上げ、世界各地で開かれている写真展「ポジティブ・ライブス」をムーブで開催いたします。

HIV感染者とその家族、友人たち一人ひとりの物語を映し出した写真からは、エイズの世界的大流行という悲劇に「前向きに」立ち向かおうという呼びかけが伝わってきます。

入場無料

■後援

(財)性の健康医学財団

北九州市、北九州市教育委員会、福岡県、福岡県教育委員会、北九州市医師会

朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、西日本新聞社、日本経済新聞社、時事通信社、共同通信社、NHK北九州放送局、

RKB毎日放送、九州朝日放送、TNCテレビ西日本、FBS福岡放送、TVQ九州放送、LOVE FM

問い合わせ TEL: 093 (583) 3939 (北九州市立男女共同参画センター“ムーブ”事業課)

〒803-0814 北九州市小倉北区大井町4-4 FAX: 093 (583) 5107 ホームページ: <http://www.kix.or.jp/aiwsva/way/>

エイズの時代を生きる!

イマドキの若者の性健康

2002年に日本国内であらたにHIVに感染した人は600人以上。

(厚生労働省による発表)

エイズはもう誰にでもかかる可能性がある病気です。

でも、私たちはこの病気のことを、本当に知っているでしょうか?

あらたな感染を防ぐために、また感染者が快適な生活を送ることが

できる環境をつくるために、知ること、話すことから始めませんか?!

「ポジティブ」という言葉には、HIV陽性である、という意味と同時に、「前向き」「積極的」という意味があります。

感染者、医師、支援者、そして会場の市民の方々が「エイズの時代」をポジティブに語るトークライブと、「エイズの時代」をポジティブに観る写真展を開催します。皆様のお越しをお待ちしております!!

トークライブ「ポジティブ・エイズ・トーク」

2004年2月1日(日) 14:00~16:00

長谷川博史

JaMP+ (HIV感染者・エイズ患者のネットワーク組織) 代表

北村紀代子

人権と共生を考える
エイズ・ワーカーズ・福岡代表

山本政弘

国立病院九州医療センター
免疫感染症科医長/感染症対策室長

堀口雅子

「性と健康を考える女性専門家の会」会長
虎の門病院産婦人科

写真展「PositiveLivesAsia」

2004年1月20日(火)~2月1日(日)

タイ、フィリピン、中国、韓国、そして日本

アジアの国々でエイズと闘う人々の姿をとらえた写真展を開催します。

英国の非営利団体「ネットワーク・フォトグラファーズ」が中心となって1993年にロンドンで立ち上げ、世界各地で開かれている写真展「ポジティブ・ライブス」をムーブで開催いたします。HIV感染者とその家族、友人たち一人一人の物語を映し出した写真からは、エイズの世界的大流行という悲劇に「ポジティブ(前向き)に」立ち向かおうという呼びかけが伝わってきます。

会場(どちらも) ●北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」1階交流広場

主催●(財)エイズ予防財団

担当●北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」、産業医科大学医学部公衆衛生学教室(剣)

後援●(財)性の健康医学財団、

北九州市、北九州市教育委員会、福岡県、福岡県教育委員会、北九州市医師会、

朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、西日本新聞社、日本経済新聞社、時事通信社、共同通信社、NHK北九州放送局、

RKB毎日放送、九州朝日放送、TNCテレビ西日本、FBS福岡放送、TVQ九州放送、LOVE FM

性感染症・エイズ

市民公開講座
入場無料

2月12日(木)

場所 大泉学園ゆめりあホール

〒178-0063 練馬区東大泉1-29-1
TEL 03-5947-2351 FAX 03-5905-2021
西武池袋線大泉学園駅徒歩1分

午後1時30分開場
午後2時開演

主催：
財団法人 エイズ予防財団

後援：
練馬区／練馬区医師会／(財)日本性教育協会
日本性感染症学会／東京産婦人科医会

事務局：
財団法人 性の健康医学財団



中高生のお子さんをお持ちの
お母さん、お父さん、
ご参加をお待ちして
います。

知ろう、
話そう、
予防しよう

プログラム

<第1部> 2時～4時

司会：松田 静治（江東病院産婦人科・性の健康医学財団副理事長）

若者に広がる性感染症の現状とその対策

早乙女智子（回生会ふれあい横浜ホスピタル産婦人科医長）

わが国のエイズの最新情報

根岸 昌功（東京都立駒込病院感染症科部長）

<第2部> 4時～5時

パネルディスカッション 若者の性と健康

司会：島崎 継雄

（日本性科学情報センター所長・性の健康医学財団副理事長）

パネラー：

松田 静治／早乙女智子／根岸 昌功

久保田 繁（産科婦人科久保田病院院長）

豊永 祐里（東京都立第四商業高等学校養護教諭）

大泉学園ゆめりあホールにおける市民公開講座

プログラム

「性感染症・エイズ——知ろう、話そう、予防しよう」

2004年2月12日(木) 午後1時30分開場、午後2時開演、午後5時終演予定

- 0) 2:00~2:10 開会の辞 性の健康医学財団副理事長 松田 静治
ごあいさつ 練馬区保健所長 北島 和子

【第1部】 司会 松田 静治(まつだ・せいじ) 54年順天医大卒、現江東病院産婦人科医

- 1) 2:10~2:50 「若者に広がる性感染症の現状とその対策」PPスライド映写
早乙女智子(さおとめ・ともこ) 回生会ふれあい横浜ホスピタル産婦人科医長
(1986年筑波大医卒、NTT東日本関東病院産婦人科を経て、現職に。産婦人
科学、性感染症学専攻、性と健康を考える女性専門家の会副会長)

2:50~3:00 質疑応答(10分)

- 2) 3:00~3:40 「わが国のエイズの最新情報」資料配付
根岸 昌功(ねぎし・まさよし) 東京都立駒込病院感染症科医長
(70年慶大医卒、81年より現職。内科・感染症学専攻)

3:40~50 質疑応答(10分)

3:50~4:00 休憩(10分)

【第2部】 司会 島崎 継雄(しまざき・つぐお) 早大卒、72年まで小学館、96年まで日
本性教育協会。現日本性科学情報センター所長・性の健康医学財団副理事長

- 3) 4:00~4:50 パネルディスカッション「若者の性と健康」
松田 静治・早乙女智子・根岸 昌功 各先生のほか、
久保田 繁(くぼた・しげる) 産婦人科医(都立大泉高・69年日医大卒、76
年大泉で産科婦人科久保田病院を開設、病院長として現在に至る)
豊永 祐里(とよなが・ゆり) 東京都立第四商業高校教諭(養護教諭)

- 4) 4:50~4:55 閉会の辞 桜井 賢樹(さくらい・よしき) 医学博士、財団
法人エイズ予防財団国際協力部長兼研修研究部長

【事業の名称】 厚生労働科学研究(エイズ対策研究)研究成果等普及啓発事業(主任研究者:東大名誉教授阿
曾佳郎・性の健康医学財団理事長) 【開催責任者】 同上研究班の分担研究者:松田静治(性の健康医学財
団副理事長) 【主催】 財団法人エイズ予防財団 【協力】 練馬区保健所・財団法人性の健康医学財団

若者に広がる性感染症(STD)の現状と対策

ふれあい横浜ホスピタル産婦人科医長
早乙女智子
2004. 2. 12

性感染症はなぜ問題なのか？

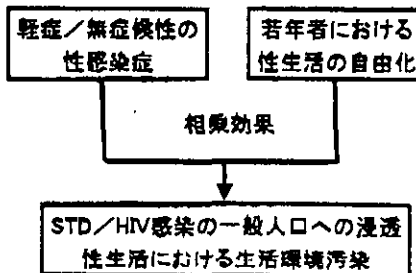
- 1) 性行為で誰もが感染する可能性がある
- 2) 痛み、かゆみなどの不快な症状や生命を脅かすリスクにも繋がる
- 3) 将来の不妊・生殖器癌・HIV易感染性などの健康障害に繋がる可能性がある
- 4) 母感染により子どもにも感染するリスクがある

リプロダクティブヘルス・ライツ

性と生殖に関わる健康とその権利は、性別・婚姻状態・人種等に関わらず守られるべきである。

- 1) 家族計画(避妊・出産・不妊治療など)
- 2) 母子の安全が守られること
- 3) すべての子供が安全に成長できること
- 4) STDの恐れなしに性が享受できること

性感染症流行の原因



STD(性感染症)とは？

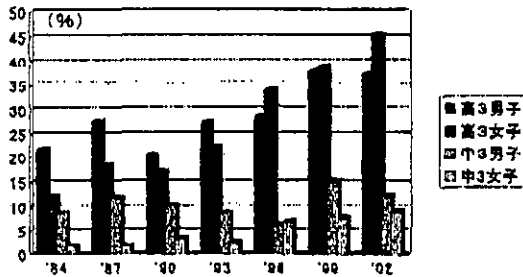
STD(Sexually Transmitted Diseases)
性(行為)感染症: 性的な行為によって感染・発症する疾患

STI (Sexually Transmitted Infection)
性(行為)感染: 性的な行為によって感染する状態: HIV・HBV・HCVなど

21世紀の病気としてのSTD

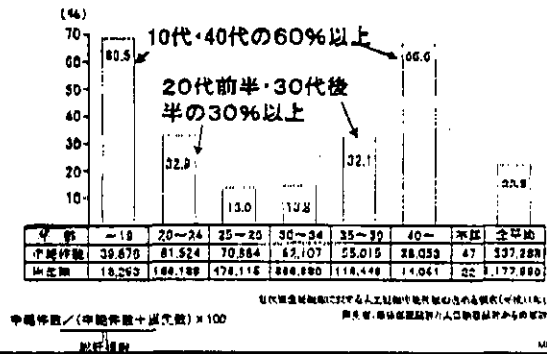
- 1) 若年者の性行動の変化—未婚・若年者
- 2) 有症状から無症候性へ変化
- 3) ウイルス性の長期間にわたる感染が主
- 4) 治療薬の進歩-抗生剤、抗ウイルス剤
- 5) 公衆衛生学の発達と臨床現場の連携
- 6) リプロダクティブヘルス・ライツの観点

初交経験累積率の年次推移

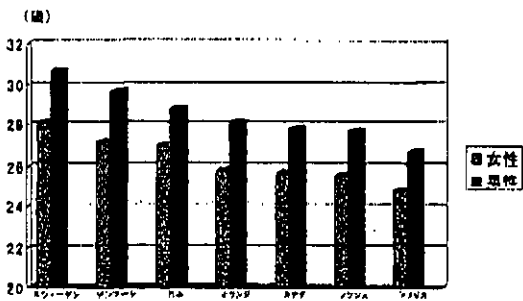


東京初交経験・小・中・高・心臓性発達研究会

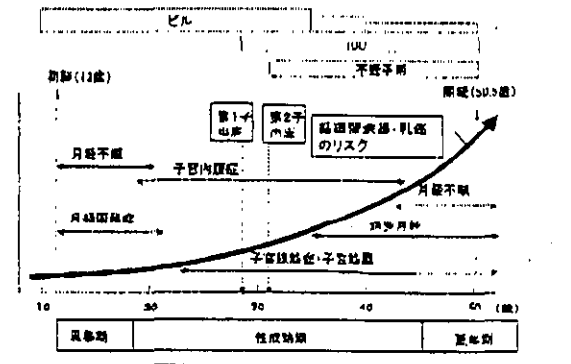
妊娠に占める中絶の割合



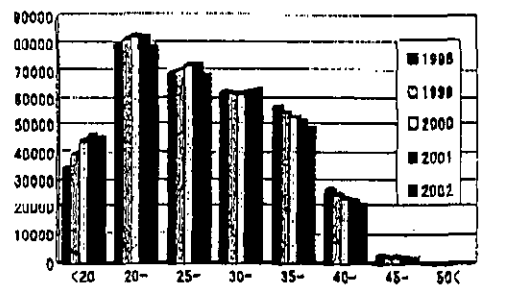
先進諸国の平均初婚年齢



それぞれの避妊法に適する年代



中絶件数の推移(1998年～2002年)



避妊法による失敗率

①各種避妊法を理想的に使用した場合の年間失敗率

ピル: 0.1% コンドーム: 3% リズム法(オギノ法): 1～9%

②これを10万人当りの女性人数で計算すると、年間妊娠数は、

100人 3000人 1000-9000人

③15-49歳までの日本女性約2881万人当たりには生じる妊娠数

使用者: 13万人 1325万人 73-1557万人

妊娠: 130人 39.8万人 1.7-15.8万人

ピル使用者が1000万人になれば望まない妊娠は29万人減る

OCの服用で起こること

一般的な副作用
10人中3人(10-30%)
嘔気・不正出血・
むくみなど

QOLを改善する副効用
10人中7人(50-70%)
月経痛や月経量軽減
PMS改善・卵巣がん予防

稀だが重篤な
血栓症10万人に1人
(0.001%)

最も確実な避妊効果
1000人に1人の妊娠
99.9%

性感染症から身を守るには

- 1) 一生性交しない(0%)
- 2) パートナーを固定し、お互いに他のパートナーを持たない(数%)
- 3) 確実にコンドームを使用する(10%程度)
- 4) 感染が疑われたら検査・治療を速やかに受ける(早期発見・治療)

性の何を学ぶのか？

- 1) 性の権利(リプロダクティブヘルス・ライツ)
性別・婚姻状態・国や地域によらない
- 2) 精神的・社会的・身体的に良好な性とは？
コミュニケーションとしての性、生殖の性など
- 3) 性のリスク回避行動のポイント
金銭・薬物使用・性依存・望まない妊娠・STD
- 4) 一生を通じる豊かな性のあり方
性の価値観・バリエーション・高齢者の性

若者の問題点

- 1) 性交しないことになっているので相談しにくい(親・教諭など)
- 2) 知識がないので心配はするが問題回避行動が取れない
- 2) 保険証を使用すると親にばれてしまうので医療機関に行きにくい
特に男子は窓口が少ない(泌尿器科)
- 4) 説教される(と思う)ので行きたくない

「医療」の立場から 知っておいて欲しいこと

- 1) 命は尊く慈しむものである一命と向き合う
無駄に命を殺めない
- 2) 性は一人では成り立たない一妊娠の不思議
種の保存・個体の保存を尊重
- 3) 感染症は病原体との戦い一公衆衛生
敵の性質を知り、身を守ること

若者に対する大人の役割

- 1) 子どもより知識を持つ(正しい知識)
- 2) 性を肯定的に語ろう
- 3) 大人もきちんとしよう
- 4) 子どもを尊重しよう
- 5) 共に問題解決に望む姿勢を

子どもたちを守るのは大人の責任
いけません！だけでは通用しない

感染症新法における性感染症

- 1) 性器クラミジア感染症(かゆみ)
- 2) 性器ヘルペスウイルス感染症(水泡)
- 3) 尖形コンジローマ(イボ)
- 4) 梅毒(陰部潰瘍)
- 5) 淋菌感染症(膿)

<参考> 第4性病:梅毒、淋病、
風疹リンパ肉芽腫、軟性下疳

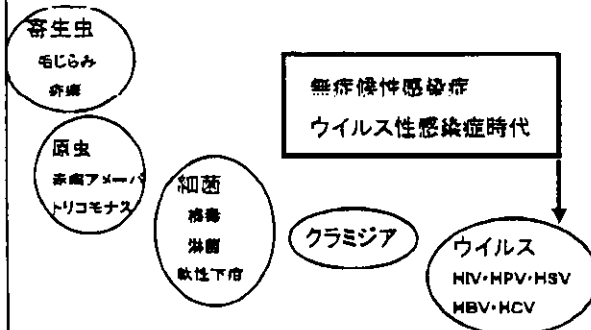
STDの種類(2)

ウイルス性:

HIV (Human Immunodeficiency Virus)
HBV (Hepatitis B Virus)
HCV (Hepatitis C Virus)
ATL (Acute T-cell Lymphoma Virus)

HSV (Herpes Simplex)
HPV (Human Papillomavirus)

性感染症病原微生物の種類



アメリカ家族計画クリニック でのクラミジアスクリーニング

対象:

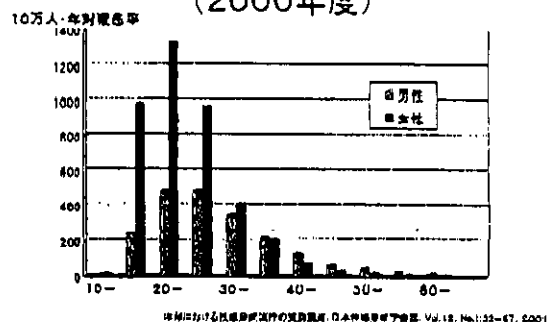
- 1) 25歳以下全員
- 2) 25歳以上で過去12ヶ月以内に
新しいパートナーを持った人とすると、

25歳以下で80%をカバー
30歳以下の93%をカバーできる

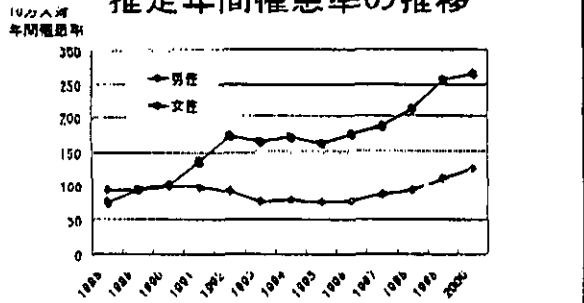
STDの種類(1)

寄生虫:疥癬、毛じらみ
原虫:アメーバ赤痢、トリコモナスなど
細菌:梅毒 *Treponema Pallidum*
淋病 *Neisseria Gonorrhoeae*
クラミジア *Chlamydia Trachomatis*

性器クラミジア感染症全国調査 (2000年度)



性器クラミジア 推定年間罹患率の推移



淋菌感染症

Neisseria Gonorrhoeae 感染
1975年の475をピークに100/10万対に減少(USA)
症状と診断: 淋菌の検出
a) 男性淋菌性尿道炎 潜伏期2-7日
b) 淋菌性子宮頸管炎 軽微症状、PIDも
c) 淋菌性咽頭炎 感染者の30%に起こる
治療: Spectinomycin (SPCM) 2.0g/日 im
Cefotaxime (CTXM) 1.0g/日 iv
Cefixim (CFIX) 200mg/日 p.o.
問題点: 耐性菌 セフェム・ニューキノロン耐性

クラミジア感染の問題点

男性: 尿道炎、前立腺炎
女性: 膀胱炎、子宮頸管炎、子宮内膜炎、
卵管炎、骨盤腹膜炎、肝周囲膿瘍
母子感染: 新生児結膜炎・肺炎

膣トリコモナス症

病原体: *Trichomonas vaginalis* 原虫
ピンポン感染、水を介した感染
診断と治療: 鏡検でトリコモナス(+)
男性ではNGU(非淋菌性尿道炎)
女性では泡珠状の帯下
Metronidazole (Flagyl) 500mg/1日2回 10日
男女双方の治療を行うことが大事

ヘルペス感染症

Herpes Simplex Ⅰ(口唇) Ⅱ(陰部)型
Oral SEXの影響により Ⅰ, Ⅱ型の交錯が見られる
症状: 潜伏期2-10日間
水泡、潰瘍形成、仙髄神経節に潜伏
診断: 局所からのウイルス分離
抗体価の変化
治療: 1年以内の再発なし
Acyclovir (Zovirax) 400mg 1日2回 49%
Famciclovir (Famvir) 250mg 1日2回 72%
Valacyclovir (Valtrex) 1000mg 1日1回 49%

梅毒

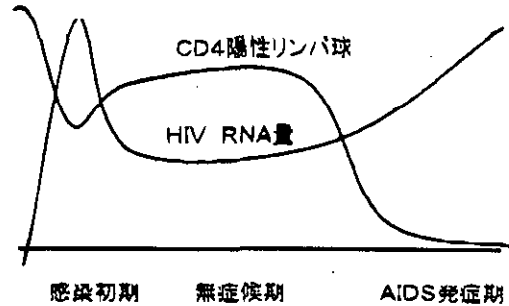
病原体: *Treponema Pallidum*
感染は減っているが男性にやや多い
献血や妊婦検診で見つかることが多い
1期梅毒: 感染3週間 初期硬下疳一環性下疳
2期梅毒: 感染3ヶ月ごろから梅毒疹
3期梅毒: 感染5年以上 顕明性梅毒疹、皮下のゴム腫
4期梅毒: 梅毒による大動脈炎、腎臓病、進行性眼
先天梅毒: 胎内感染による黄疽、眼動網膜炎など
HIV感染に伴う梅毒
治療はペニシリン系の抗生剤

HPV感染と癌

HPVは尖形コンジローム(イボ)を形成
良性(イボ)型—6, 11型など
悪性(癌)型—16, 18, 31型など

子宮頸癌・陰茎癌は、HPV感染が関与
HIV感染があると、子宮頸癌リスクが上昇

HIV感染症の経過



HIV感染症とAIDS

- 1) **感染初期**: 体内にHIVウイルスが入ると、発熱・リンパ節腫脹・筋肉痛など、風邪のような症状が起こる。
- 2) **無症候期**: CD4リンパ球が破壊されていく
- 3) **AIDS発症期**: ウイルスの増殖と宿主の免疫応答がウイルス優位になり後天性免疫不全症候群(Acquired Immunodeficiency Syndrome)を発症する。

性的な存在である人間の生き方

愛があれば性感染症は防げる?
愛がない相手には性感染症はうつしても良い?
性感染症にかかるのは悪いことをしているから?
性感染症になってはいけない?
性感染症にかかったら治せばいい?
恐いから検査は受けない?

性感染症は21世紀型の感染症
結婚制度は健康管理システムではない
科学的知識による健康管理は個人の責任

HIV感染症の指標

- 1) 血中ウイルス量(HIV RNA量)
>400コピー/ml
=HIV感染症の進行速度
- 2) CD4リンパ球数=感染者の免疫状態
<200/mm³で状況悪化
- 3) B型・C型肝炎ウイルス感染やSTDなどの重篤化の有無
- 4) 薬剤耐性検査

HIV感染症・エイズとは

HIV感染症は、ヒト免疫不全ウイルス(HIV)が人に感染し、免疫が徐々に壊されていく慢性進行性の感染症です。この結果、免疫が働かなくなり、いろいろな病気になるのがエイズです。現在、HIVに感染してしまった場合、エイズになるのを遅らせる治療があります。

HIVは感染している人の血液と精液に多く出てきますので、性交渉、注射の回しうちが主な感染経路です。母子感染も報告されています。

HIV感染で何が体で起こるのか

HIV感染で病気が進んでいくと、体の免疫を司っているリンパ球が壊れていきます。このため免疫が十分に働かなくなり、体の内外にある微生物(細菌、カビ、ウイルスなど)に攻撃されるようになり、いろいろな症状が現れるようになります。免疫の力が元に戻らない限り、この状態が続きます。

HIV感染症・エイズの治療

現在では、体の免疫の力はCD4リンパ球の数、HIVの勢いはHIV-RNA量で測れるようになってきました。これによると、CD4リンパ球が $200/\mu\text{l}$ を下回ると症状が現れるようになることが分かっています。これらの数を参考にして治療を決めています。

HIVが体の中でどのように増えるかが研究され、それを抑えるための薬が使えるようになりました。逆転写酵素阻害剤9剤、プロテアーゼ阻害剤8剤があり、これらを組み合わせた多剤併用療法が行われています。この治療により、多くの人の病気の進行がくい止められるようになりました。しかし、HIVを完全に除去することはできません。また、副作用で悩んだり、薬が利きにくくなることもあります。

症状がある場合は、その病状に応じて治療ができます。一番多いのはカリニ肺炎という病気で、熱、せき、息切れが主な症状です。カンジダ症、サイトメガロウイルス感染症、結核なども日本では多い病気です。それぞれの診断に応じて治療します。

HIV感染症・エイズの広がり

国連のWHO・UNAIDSの推計では、世界に4000万人以上の人々がHIVを抱えて生活していて、毎年500万人ほどが新たに感染し、300万人ほどが死亡していると報告しています。最近では中国、ロシア、インド、東南アジアなどでの感染の増加が激しいと述べています。主な感染経路は性的接触で、ほかに注射の回しうちがあり、その対策が重要になっています。

一方日本では、2003年末までに届出のあったHIV感染者累計数は5767名、エイズ患者累計数は2882名です。2003年は一年間でHIV感染者が今までで最も多く627名、エイズ患者数も326に上っています。今後もさらに増え続けると予測されます。

感染経路では、性的接触による感染が多く、異性間の性的接触が全体の34%、同性

間性的接触が 27%を占め、凝固因子製剤による感染は 22%です。注射の回しうちによる感染が少ないのが日本の特徴になっています。

これまでの成果と課題

1981年にこの病気が報告されて以来、世界中の人々がさまざまな調査や研究をして、この病気との戦いが繰り広げられてきました。

医療技術;まず治療法ですが、まだ HIV を取り除く薬はありません。現在使われている薬で病気の進行を遅らせ、その間に根本的な治療薬の登場を待っているのです。現在の薬には副作用や毒性がありますので、より飲みやすい安全な薬の開発が進められています。エイズになったときの合併症の治療薬も進歩してきましたが、まだ効果的な治療法がない病気もあります。

医療体制;治療を受ける場所(病院)の整備と医療従事者の訓練も進んできました。現在では日本各地にエイズ拠点病院があり、どなたでも診療を受けることができます。拠点病院の間での連携は整備され、拠点病院と一般病院との機能に応じた連携、病院と医院との連携もできるように努力が続けられています。

治療を受ける HIV 感染者・エイズ患者に対する福祉が整備されています。日常生活の制限の度合いに応じて身体障害者福祉法、更生医療が使えるようになり、HIV 感染者・エイズ患者が社会復帰できるように配慮されています。これからも、働きながら治療が受けられるような制度に改正する必要があります。

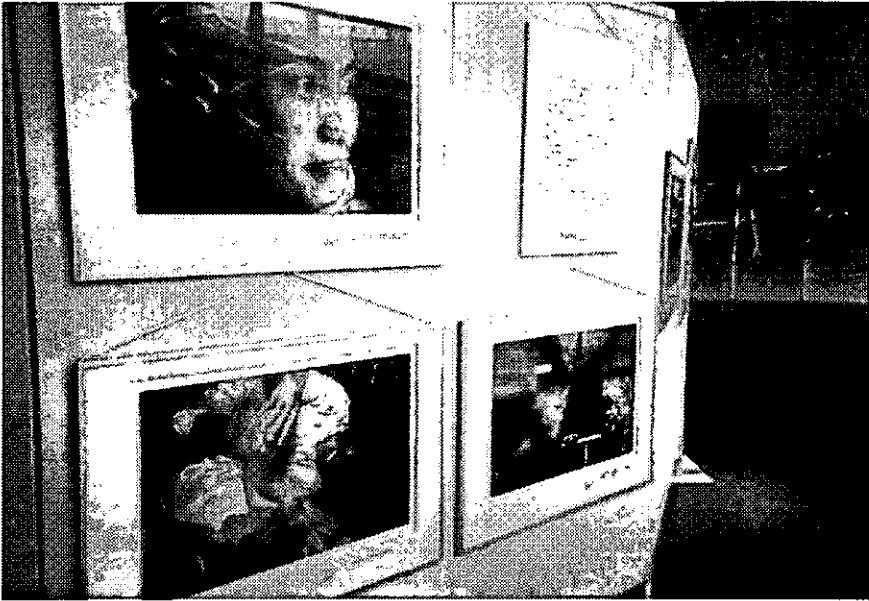
外国人医療;保険を持っていない在日外国人が病気になったとき、とても大きな困難にぶつかります。高額な医療費、福祉の対象になっていないこと、周囲の理解がないことなどです。

予防;HIV 感染者・エイズ患者が社会復帰するには、一般市民の理解が必要です。そのための啓発活動が行われていますが、まだ十分ではありません。きめ細かな配慮ができる地域活動が必要で、NGO の育成と充実のための支援が重要になります。

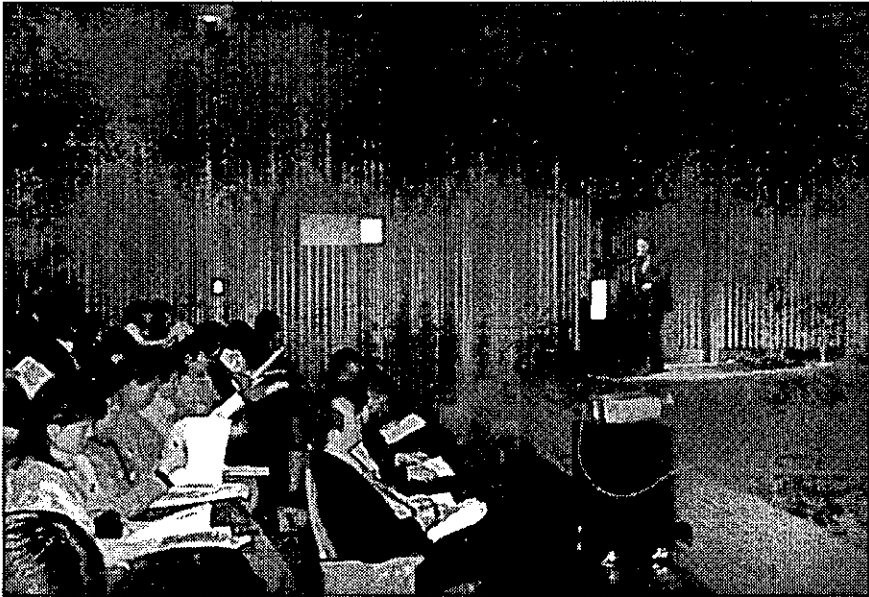
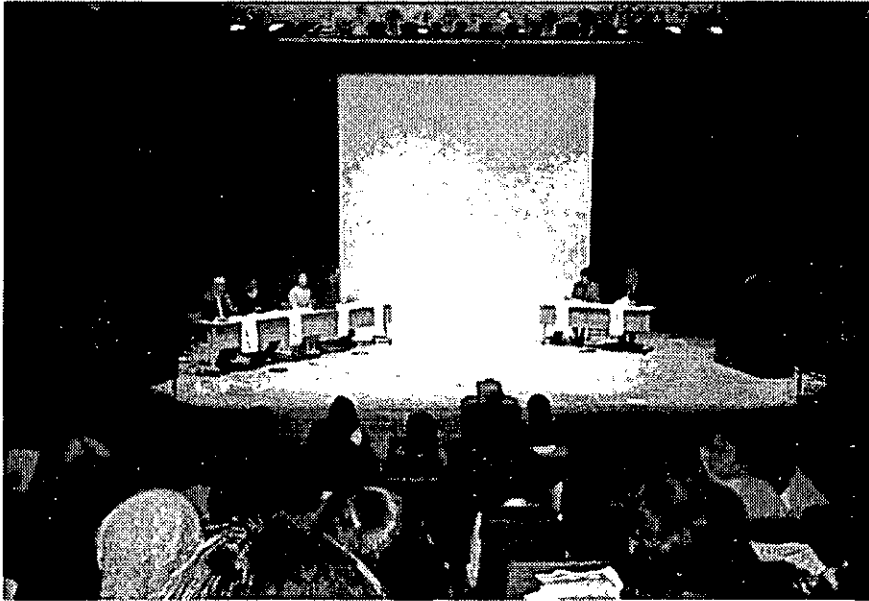
感染予防の呼びかけもかなり積極的に行われるようになりました。しかし、まだ性交渉の際の防御具の名前も出せない地域もあります。

予防ワクチンはまだ試験の段階にあります。日本に導入されるにはまだ時間がかかりそうです。

個人情報;特にこの病気では、過去に個人情報の扱いに不備があった歴史があり、誰もが検査結果の漏洩を心配しています。制度上で個人情報を保護するだけでなく、一般に個人情報を尊重する機運を育てることが重要です。



練馬会場スナップ



厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）

性の健康相談室を通じた市民のSTD/HIV感染調査と
HIV感染予防に関する研究

平成 15 年度研究報告書

発行：平成 16 年 3 月

発行者：主任研究者 阿曾 佳郎

事務局 〒113-0033 東京都文京区本郷 3-14-10

(財) 性の健康医学財団

TEL 03-3813-4098
